

品質・安全で新取り組み

10営業所で強化運動

境づくりにつなげた。
本社も4種類のポスターを作つたり、各営業所の取り組みや従業員の思いを紹介する社内新聞を発行したりし、意識向上を図つた。今後は新たな目標を設定し、今秋にも第2回安全強化運動を実施する。(小林 孝博)

ダイワコーポレーション(本社・東京、曾根和光社長)は、品質と安全意識向上の取り組みを推進している。昨秋には社内で「安全強化運動」を初めて実施。4営業所が期間中の目標を達成し着実な成果が出ている。

安全強化運動は、パート・派遣社員を含む全従業員の安全意識を向上するため、同社のQMS推進室が企画したもの。昨年10月1日~12月20日の期間中、庫内業務を行う10営業所が創意工夫を凝らし、「3ヵ月間で商品破損事故〇件」の目標に取り組んだ。

同社は現在、東京湾岸エリアを中心とした拠点を持ち、この数年は倉庫の大型化により、総延べ床面積が69万平方㍍を超えており、一方、従業員が増加する中、安全・丁寧な業務遂行という基本理念に課題が生じ、改めて会社で意識統一を図る必要があると判断した。

ダイワコーポ



横浜金沢営業所では、従業員一人一人が目標を書いたシートを掲示し、意識向上につなげた

いずれも顧客の信頼を得るにはどう業務を行うべきかを考えて独自の取り組みを進めた結果、破損事故〇件を達成した。他の営業所も品質と安全管理上の活動を行っており、品川営業所は社員が目標達成日数を可視化できるよう、日めくりカレンダーを作成。従業員が必ず目にする場所に掲示し、90日間緊張感を持って作業に当たった。

横浜金沢営業所はリーダーが一人一人に個人目標を確認した後、各自が直筆で目標を書き込んだ専用シートを「ピース」の目につく場所に掲示。自分の注意すべき点を確認すると同時に、従業員同士が作業を気に掛ける環